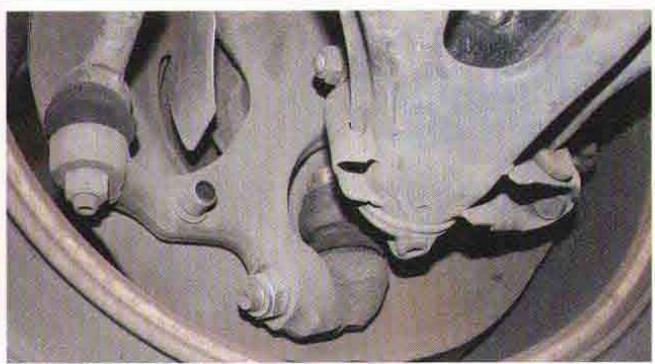


劣化しやすいゴムブーツやエアコンホースなどの弱点を克服



# ゴムパーツ日本製を使って 維持費を節約!

“ガイヤシやなんだから部品代が高いのは当たり前”。未だにそんなことをいうメカニックは残念ながら時代遅れだ。ドイツ車をリーズナブルに乗り続ける方法をユーザーは求めているのであり、国産バーツの流用もその一つである。

文・写真=マーク清原 協力=クアドリモーター

純正ハーツを計測すれば  
流用は難しくない

クルマ作りの長い歴史と、これま  
でに数々の発明品を世に送り出して  
きたドイツ車メーカー。その魅力を  
あらためてここで語ることは割愛す  
るが、ドイツ車の設計思想は今なお  
世界トップランクであるという事実  
に、GC読者ならば異論を唱える人  
はいないはず。

しかし、個々のバーツ 中でも「ムバーツ」の耐久性に関しては、日本製のそれが純正よりも優れていると思つている人は多いのではないだろうか。事実、今の国産車は10万kmを超えてもドライブシャフトブーツやステアリングラックブーツを交換することは希な整備メニューとなつている。ラジエターホースもブレーキホースも、首都圏で使用しているぶんにスモ、

号の日本の名医100人にも選出されているメカニックである。

ほど国産ゴムパーツは高い耐久性を持つているのだから、これをドライツ車に流用すれば、維持費を大きく節約することができるはず。無論、これまでにも国産バーツの流用といふアプローチを行なっているところもあつたが、ここで紹介するクアドリモーターの栗木氏は、そのあたりの情報に滅法強い人物なのだ。何せ同業者からバーツの供給を頼まれること

ラジエターホースやヒーターホース、エアコンのオースホースなども、国産を併用できる場合が多くあるとのこと。



日本製のゴムパーツは純正よりも驚くほど安く耐久性も高い

用のものを流用できるのかと聞いたところ、車種で部品を絞つていくわけではなく、あくまで寸法を調べて合ったものを使ってるので、車種で言わると分からぬとのことだ。このあたりの具体的な内容は今後の課題にするとして、ブッシュやマウントではなく、ホースやブーツといったゴム部品ならば国産車の何かを流用することはできるようなのだ。

能で、多少長い場合はカットすれば良いだけの話。部品の価格は当然国産のそれなので、ドイツ車の純正品と比較したら驚くほど安くしかも耐久性は折り紙付き。ならばW202のどのゴム部品がどの国産車

はないかと推測している。高額な工アコンの高压ホースを国産ホースに換えて修理するなんてことも可能なところである。

の足として使用している栗木氏。最近トラブル事例の多い1本ワイヤーのリンク修理も独自の治具を製作することで、リーズナブルな修理を可能にしている。

取材協力：クアドリモーター



住所：神奈川県横浜市都筑区東山田町 1350  
☎ 045-620-0181  
定休日：日曜日 / 祝祭日

## ワイヤーの分解修理も可能！

